

レジボール&条件付きゴール型ゲームでみんなが笑顔 ～教材，教具の工夫～

日田市立高瀬小学校 岩崎 敬

体育授業を行う先生にとっては、「どうしたらみんなが笑顔でゲームに参加できるだろうか」といった悩みを持たれることと思います。私自身専科教員として、全員参加できない授業になってしまう時は自分自身を不甲斐なく思うことがあります。また、9年前に全国学校体育研究大会東京大会で指導・助言者の先生から、

**小学校6年間で一度も得点を決めることなく
卒業していく子どもたち**

「小学校6年間で一度も得点を決めることなく卒業していく子ども」が多々いるという

お話を聞き、何とか改善できないものかと常々思っています。

ゴール型ゲームの授業を進める上で、どうにかならないものかといつも悩むことが二点あります。

- ①どこにどう動いていいかわからないからパスが来ない。
- ②ボールをキャッチできないから仲間からパスが来ない。



**ボールに触れる絶対量が減り
技能が定着しない**

そこで

授業者の悩み	今回の実践したこと
①どこにどう動いていいかわからないからパスが来ない。	ゴール型単元を2回続ける。 段階的にルールを変える。
②ボールをキャッチできない、投げられないから仲間からパスが来ない。	キャッチしやすいく投げやすいものにボールを変える。

<最初の単元はアイスクリームバスケット>

6年生に試しのゲームで知っているルールでゲームをやってみると下記のような場面が見られました。



①ドリブルをする子に対し、どこにどう動いていいかわからず多くの子が棒立ちになる



②ドリブルすることに精一杯で、周囲の状況が全く見えない



そこで

- ボール保持者から1 m 離れる,
- 手によるパスカットは不可
(相手のパスミスで攻守交代)
- 頭上とバウンスは不可の2Dルール
- コート内は常に3対3

の設定

この条件の中で、

「どこにどう動いていいかわからないからパスが来ない」という子どもはほぼいなくなりました



協働して得点するアイスクリームバスケットは、各学年とても盛り上がりました。

<引き続きゴール型で三角ゴールハンドボール>

「ボールをキャッチできないから仲間からパスが来ない」を解消するために

レジボールを40球作成



ロングパス



つかみやすく投げやすいレジボール
(この単元では3DパスをOKにしています)



キャッチ



シュート



鮮やかな速攻のシーン



投げやすいから身に付く鞭動作



飛びついてでもレジボールを捕ろうと



レジボールはすぐ痛みますが，その分子どもたちの技能も向上しています。

また技能の上達の程度に合わせ，ガムテープでレジボールの巻く量を調整しています。

**ガムテープの量が増えると
ボールにスピードが出る
捕りにくくなる
顔に当たると痛い**



投げやすい 捕りやすい 痛くない

ボールの使用で

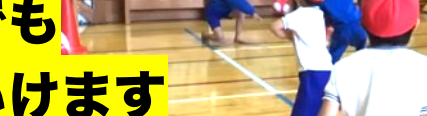
「ボールをキャッチできないから仲間からパスが来ない」という悩みもほぼ解消

気づいたらゲームに全員が参加しており，どの子もキャッチやシュートができるようになっていました。



一年生のはしごドッジや的あてゲームにも

レジボールを使っています



**ボールを掴みやすいから，一年生でも
鞭動作や身体の捻りを身に付けていきます**

子どもたちの困りを解消するために、授業者で教具を作成することはとても楽しいです。

右の QR コードは有田小学校に勤務していた時にレジボールを使った「たまごわりサッカー」の実践です。似たような報告になりますが、興味ある方はご覧ください。



レジボールサッカー